

2017年度夏学期 復興デザインスタジオ 「東日本大震災からの復興計画レビュー」

担当：窪田・本田・羽藤・大月・井本・萩原

TA：益邑・須沢・渡部

日時：毎週月曜日 3-5 限 13:00 - 18:30

場所：14号館 222号室

1. 趣旨

2011年3月11日に発生した東日本大震災から、6年が経過した。各市町村で計画された復興計画に基づき、復興事業が実施されているが、その進捗状況にも差が生じてきている。また、今時災害は、日本が縮退時代に突入して以降、初めて経験した巨大災害であり、これまでの事業制度では対応が不十分であった事項も見られた。

縮退社会で、南海トラフ巨大地震といった広域的災害の発生が懸念される中で、現時点での今次災害の復興計画やその策定プロセスを整理し、知見としていくことが求められている。発災から6年が経過した今でこそ行いうる、今次災害への理解と提案を求める。

2. 復興デザインスタジオの進め方

本スタジオは建設系の大学院生を履修者として想定している。それぞれの分野を越えて、良く議論し一つの提案にまとめることで自分の専門領域の可能性と限界を考えてほしい。

前半は、調査やリサーチを中心とする。毎週、チームごとに発表して、全員で理解を深める。よって月曜午後以外に、チーム単位で議論を尽くしてほしい。「復興デザイン学」も関連づけている。

後半は、提案に主眼を置く。特に中間ジュリー以降は、チームごとにエスキース、提案内容を深める。

提案においては、多様なスケールを対象に、空間計画に加えて、それと密接に結びつく産業やコミュニティといった地域の経済・社会的側面を総合的に捉えるとともに、それらを支える法制度や事業手法などへの提案も含めて、復興をデザインする。

3. 成果イメージ

1) 地域に根付いた共同体や自治体による復興に向けた取組み・空間計画の提案

地形、産業、歴史、生活などを多様な視点からの東日本大震災の被災地域の現状・課題の把握

今次災害からの復興計画や被災地域における取り組みのレビュー

→アウトプット：特定の被災地域における復興プランの提案（空間計画 / 居住地や低地部における日常生活や産業等を踏まえて提案）

2) 復興事業（法制度を含む）やプロセスに対する理解と提案

今次災害における多様なスケールにおける復興プロセス（緊急対応、応急対応、復旧、復興）の実態と課題の把握

今次災害からの復興に関わる法制度や復興事業とそれにより実現される空間像・社会像のレビュー

→アウトプット：次の広域的災害に対応する復興事業・プロセスへの提案

4. テーマ例

- ・ 災害危険区域の利用実態を踏まえた低地部利用プロジェクト
- ・ 居住地の計画パターン（原位置復旧や高台移転）ごとの生活再建プラン
- ・ 長期避難生活下での仮設住宅への改善提案（法制度・運用・空間）
- ・ 広域インフラの復旧プロセスと日常的なマネジメント

5. その他

- ・5月14(日)、15日(月)の行程で、被災地(宮城県)を訪問し、現状を把握する。

6. スケジュール(予定)

日程	内容	備考：左記の日程後にやること
1.4/10 1号館15教室	オープニングセッション ・ 基調講演：伊藤毅先生「危機と都市」 ・パネルディスカッション 話題提供；角田陽介氏 (都市再生機構、元大船渡副市長、都市工OB) 司会：田島先生 PD：伊藤先生、角田氏、窪田 ・スタジオの内容説明 ・必読文献や参考文献の紹介	履修希望者メール受付 ・4/13、23:59までに下記二箇所へ応募してください。 ak@td.t.u-tokyo.ac.jp hagiwara@td.t.u-tokyo.ac.jp ・4/15までに履修者を決定してメールにて通知します。 ・履修者は復興デザイン実践学社会接続演習も履修すること
2.4/24 学：石渡先生 (JICA)	自己紹介プレゼン (3分ずつ/レジュメを用意) テーマ別にチーム分け3チーム想定 テーマ例) ・災害危険区域(低地)の利用実態の理解 ・仮設住宅と長期避難生活 ・インフラ整備とマネジメント(広域ネットワーク) ・居住地の計画パターン(原位置復旧と高台移転)	・前半は、資料(報告書や論文)の読み込みが中心。 ・TAからもテーマプレゼン
3.5/1 学：前田先生 (京都大)	チームごとに議論 (スタディツアー予習)	・議論をふまえて、さらに内容を深めて、調査続行
4.5/8 学：庄司先生 (筑波大)	チームごとに議論 (スタディツアー予習)	
5.5月14~15日：東北スタディツアー(予定) 1日目：仙台市(災害公営住宅など)、岩沼市(平野部における居住地の計画)：(夜に議論) 2日目：石巻市(産業、商業の復興)、女川町(公共空間の見学)		
6.5/22	各チームにて、データの整理、まとめ	
7.5/29 学：岡村先生 (東京大・生研)	前半ジュリー ：課題の整理と提案の方向性について 提案にむけて議論	・スタジオ終了後、冊子の一部となることを想定して作業 ・前半ジュリーの議論をふまえて各チーム修正 ・提案する内容に合わせて、模型、平面図、断面図、立面図、ダイアグラムなどを

		提示
8.6/5 学：佃先生 (東北大)	中間ジュリーに向けてエスキース：提案の骨子	
9.6/12 学：未永先生 (福島県医大)	後半中間ジュリー：ピンナップレビュー 提案チーム同士の共有事項整理 全体の基本的な姿勢検討議論	・トレベなどでも構わないが、提案の内容の骨子は発表して、有益な議論とすること。
10.6/19	エスキース	
11.6/26	エスキース	・プレゼンテーション準備も適宜開始する
12.7/3	エスキース	
13.7/10	最終ジュリー	・報告書等を7月中をめどに提出すること。 ※社会接続演習に対応

※「学」は復興デザイン学の開催日及び講師